

MACROCOSM



CONTENTS

- 2 平成20年度日中韓青少年交流事業
- 12 国際理解教育支援プログラム
- 13 2008未来を開くアジア青少年キャンプ

総合テーマ: 東アジアの安定と繁栄のために日本、中国、韓国の青少年の果たすべき役割



齋木昭隆外務省アジア大洋州局長、劉愛平中国代表団団長、丁君植韓国代表団団長



韓国代表団員によるパフォーマンス(9月19日 夕食交流会)

1. 開催趣旨

日中韓青少年交流事業は、昨年8月、温家宝総理の提案により、中国(北京・天津)において実施されました。

昨年11月にシンガポールで開催された日中韓首脳会談において、福田総理(当時)より、平成20年度は日本において本事業を実施することを表明したことを受け、21世紀東アジア青少年大交流事業の一環として、第2回目が日本において実施されました。

本事業には、我が国青少年の他、中国、韓国から来日する青少年が参加し、テーマ毎に視察・ディスカッションを行い、その成果は、本年日本にて開催予定の日中韓首脳会議で報告される予定です。

2. 事業概要

(1) 主催:

日本 財団法人日中友好会館
財団法人日韓文化交流基金

中国 中華全国青年連合会

韓国 韓国青少年団体協議会

(2) 共催: 外務省

(3) 実施団体: 財団法人青少年国際交流推進センター

(4) 実施時期及び開催期間:

中国、韓国参加者:

平成20年9月17日(水)~23日(火)

日本参加者: 平成20年9月17日(水)~20日(土)3泊4日(研修含む)

(5) 参加国及び参加人数: 日本(95名)、中国(99名)、韓国(100名)

(6) テーマ:

総合テーマ: 東アジアの安定と繁栄のために日本、中国、韓国の青少年の果たすべき役割

- ① 環境(企業の社会貢献の視点から考える)
- ② 高等教育(リーダーシップの育成について)
- ③ 文化交流(伝統文化の継承)

3. 日程

月日	時間	プログラム	備考
9月17日(水)	08:25/12:55	中国参加者成田到着(北京/成田 JL780)	
	08:30/13:00	中国参加者成田到着(北京/成田 NH956)	
9月18日(木)	11:50/13:55	韓国参加者羽田到着(金浦/羽田 JL8832)	宿泊:京王プラザホテル
	13:00	日本参加者集合、事前研修	
	16:00-16:45	韓国参加者オリエンテーション	
	17:00-17:45	中国参加者オリエンテーション	
	19:00-20:30	歓迎夕食会	
	09:00-10:00	コース別ミーティング	
	10:30-11:20	基調講演 谷内正太郎氏(外務省顧問、前外務事務次官)	
	11:45-12:45	昼食	
	14:00-17:00	環境コース(課題別視察) 株式会社リーテム(A) パナソニックセンター東京(B) JFE環境株式会社川崎ヘッドボルトリサイクル工場(C) 高等教育コース(課題別視察) 東京都立国分寺高等学校(D) 慶應義塾高等学校(E) 明治学院大学及び明治学院高等学校(F)	
	13:30-17:00	文化交流コース(ディスカッション)(G,H,I)	
18:00-19:00	スポーツ交流(ボーリング)		
19:15-20:15	夕食会		
20:30	ハタボウル発		
21:00	京王プラザホテル着	宿泊:京王プラザホテル	
9月19日(金)	09:00-12:00	環境コース・高等教育コース:ディスカッション	宿泊:中国・韓国参加者 京王プラザホテル
	09:15-11:30	文化交流コース(課題別視察)裏千家東京道場(G,H,I)	
9月20日(土)	13:00-15:00	テーマ毎のまとめ	宿泊:日本参加者 NYC
	19:00-20:30	夕食交流会	
9月21日(日)	21:00	*日本参加者への修了証の授与	宿泊(指導者) 山形:東京第一ホテル米沢 大阪:ハートンホテル南船場 熊本:三井ガーデンホテル熊本 参加者:各ホームステイ家庭
	21:00	中国・韓国参加者:京王プラザホテル着	
	08:30-12:00	日本参加者:オリンピック記念青少年総合センター(NYC)着	
	09:20/11:25	<中国・韓国参加者>事後研修 <中国・韓国参加者>地方プログラム 【山形県(高等教育コース)】 東京発/米沢着(つばさ109号)	
	09:20/11:54	東京発/山形着(つばさ109号)	
9月22日(月)	08:33/11:30	【大阪府及び近畿ブロック全府県(文化交流コース)】 東京発/新大阪着(ひかり405号)	宿泊:京王プラザホテル
	08:35/10:25	【熊本県(環境コース)】 羽田発/熊本着(ANA641)	
	14:07/16:56	ホームステイマッチング(ランチを兼ねる)	
	14:42/16:56	ホームステイ(団長等の引率者は待機)	
9月23日(火・祝)	14:13/17:30	<中国・韓国参加者>ホームステイから戻る 【山形県】 山形発/東京着(つばさ118号)	宿泊:京王プラザホテル
	15:45/17:20	米沢発/東京着(つばさ118号)	
	午前中	【大阪府及び近畿ブロック全府県】 新大阪/東京(ひかり420号)	
	14:13/17:30	【熊本県】 熊本発/羽田着(ANA646)	
9月22日(月)	15:30-17:00	京王プラザホテル着、チェックイン	宿泊:京王プラザホテル
	自由		
	18:30-20:00	江戸東京博物館(高等教育、文化交流) 日本科学未来館(環境)	
9月23日(火・祝)	20:30	歓迎夕食会 *中国、韓国参加者への修了証の授与	宿泊:京王プラザホテル
	08:20	ホテル着	
	10:35	韓国参加者羽田発(羽田/金浦10:35着 JL8831)	
9月23日(火・祝)	10:55	中国参加者成田発(成田/北京13:25着 NH905)	
	10:55	中国参加者成田発(成田/北京13:50着 JL781)	

Japan, China, and Korea Youngsters Friendship Meeting 2008

基調講演
(9月18日)



谷内正太郎外務省顧問、前外務事務次官による基調講演

歓迎夕食会
(9月17日)



齋木昭隆外務省アジア大洋州局長による歓迎の言葉



(財)日中友好会館 村上立躬理事長と
(財)日韓文化交流基金 内田富夫理事長による乾杯

夕食交流会
(9月19日)



日中韓参加国青年代表による乾杯

歓送夕食会
(9月22日)



日本青年への
修了証の授与



今後の三か国の協力と発展を誓う日中韓三か国の代表者

環境コース：企業の社会貢献の視点から考える

Environment Course: Consider social contribution by corporations

7月7日～9日に行われた北海道洞爺湖サミットでは、環境が主要議題として取り上げられたように、地球環境の保全と持続可能な発展は、地球規模で協力しあわなくてはならない課題です。

世界の多くの国々は、大量生産、大量消費、大量廃棄によって発展を遂げましたが、廃棄物は増大の一途をたどり、日本では廃棄物を埋め立てる最終処分場が足りなくなる事態が生じました。日本では、その問題解決に取り組むべく、容器包装、家電、建設、食品、自動車のリサイクル法が制定され、循環型社会を目指す取り組みが進んでいます。

産業界においても、地球環境に配慮した製品サービスの開発に力を注ぎ、消費者の豊かな生活を実現するための取り組みを促進している企業が増えています。個人レベルでも、リサイクル法の制

定により、不要になったものを廃棄するための費用を負担したり、ゴミを分別して捨てたりすることが求められるようになりました。今まで廃棄されていたゴミは、技術発展により再利用のための「原料」となり、繊維製品など様々な製品に生まれ変わっています。リサイクル専門の民間企業も設立されています。

日本では、国、企業、国民が一体となって環境への配慮の取り組みが進み始めていますが、今回は、中国、韓国でもどのような取り組みが行われているのかについて情報交換を行うとともに、特に企業の取り組みの視点から、どのようなことが可能であるかを学びます。

そして、それらの情報を基に、日中韓の青年達が自らの取り組みとして、どのようなことが可能かをディスカッションします。

Aグループ 課題別視察 株式会社リーテム東京工場

家庭ごみや産業廃棄物を出さないようにすることは不可能ですが、それらを無害化することは可能です。この会社では、ゼロエミッションに取り組み、ごみをできる限り無害化して資源としてリサイクルし、自治体では処理が困難な金属系粗大ごみも独自のノウハウにより効率的に処理しています。



中島賢一会長より自然破壊の現状についての説明を受ける



中島会長の話を熱心に聴く参加者



休憩時間に中島会長に質問をする参加者

環境コースでは、最初に、参加者各自が懸念している環境問題を挙げ、討議を始めました。環境をめぐる問題は、3か国が協力すべき事項であるものの、

まず、個人レベルでできることから取り組むべきであるとの合意に達しました。この事業の参加者間で、具体的なアクションを起こし、社会に影響を与えた

いとの願いが語られました。しばしば話題に上る「環境と経済発展の両立」に関しては、人々の意識改革が必要だと気付いた参加者が多くいました。



イーユーハウスについての説明を聴く



最新機器の使用方法について説明を受ける

Bグループ 課題別視察 パナソニックセンター東京

パナソニックセンター東京では、最先端技術で環境に貢献するという事業ビジョンのもと、2010年の暮らしを想定したイーユーハウスを見学しました。ECO（地球環境との共存）とUD（ユニバーサルデザインの創造）をテーマに、さりげなく、IT（情報技術）を日常に取り込みつつ、創エネ・省エネ、使いやすさを追求した家電製品を備え、「家まるごと」環境に配慮された近未来の住宅を見学しながら、企業の取組を具体的に知るとともに環境保全のために自分たちができることを考えました。



パナソニックセンター東京の正面玄関にて

Cグループ 課題別視察 JFE環境株式会社 川崎ペットボトルリサイクル工場

本年5月に、中国の胡錦濤国家主席が視察されたこの企業では、環境問題は社会全体で取り組むべき重要テーマと考え、行政とも連携しながら、蛍光灯、乾電池、各種廃棄物のリサイクル、アスベストの処理などを行っています。今回は、ペットボトルを樹脂フレークに再生処理している様子を見学しました。



管理本部総務部総務室 荒川晴美次長と東日本本部京浜技術部 高岡利夫技術室長からの説明を受ける



中国参加者から記念品が贈呈される



活発な質疑応答が行われる

高等教育コース:リーダーシップの育成

Higher Education Course: Nurturing Leadership

10代～20代の青少年は、誰もが今後の自分の生き方を考え、自分の能力をどのように伸ばしていくかを考えます。その過程で、学校教育の期間は、社会の現状を認識できる教養を得、尊敬できる人々や指導者と出会い、同じ意識を共有する友人とともに過ごすことができる重要な時期です。その学校教育の期間において、リーダーシップの育成が積極的に行われることは、青少年の高い能力が養われることに繋がります。また、こうして得た知識や能力は、身近な地域社会、学校、職場、ボランティア活動等の自分の活動分野で十分に発揮してこそ価値があります。能力を発揮するためには、目標を明確に語る力を身につけ、多くの仲間たちと協力し、積極的な行動を取ることが求められます。その過程

で、新しい指導者、同僚、及び外国の人々に出会い視野を広め、自分に足りない能力を補う努力を行うことで、能力を高め、自分の新たな可能性を見出し、リーダーとしての資質が養われていくでしょう。

アジアにおいて大きな役割を果たしている日中韓各国の青年たちが、自国及び世界の現状を認識するとともに自らの力をそれぞれの母国及び世界で発揮するためには、どのような教育が必要かを考え、また、共に日中韓、アジアの未来を創っていくためにはどのような考え方が必要かを考えます。そして、次世代の人材育成に青年がどのように貢献できるのかを議論します。

D ロググループ 課題別視察 東京都立国分寺高等学校

東京都立国分寺高等学校では、勝部純明校長をはじめ、教諭・職員の皆様の温かい出迎えのもと、学校見学をさせていただきました。

参加者は、学校の概要を聞いた後、英語、数学等の授業を見学しました。中でも習熟度別授業は、通常よりも少ない人数できめ細やかに指導されていることが分かりました。キャリア教育の取組みについてもお話を伺い、1年生から3年生まで段階に応じて、様々なプログラムが用意されていることを知りました。また、「木もれ陽祭」(一週間かけて、合唱祭・文化祭・体育祭が行われる学校行事)のビデオを見せていただきました。完成度の高い生徒のパフォーマンスには、参加青年から歓声が上がるとなりました。

最後に、先生方を交えて意見交換を行いました。教育や大学受験は参加者にとっても、身近でかつ関心の高い話題であり、活発な議論のため予定時間をオーバーするほどでした。

生徒さんも、参加者が話しかけると、少し照れながらも英語で答えてくれ、交流の雰囲気も味わえた訪問となりました。



ディスカッションの様子



勝部校長より学校の説明を受ける参加者



参加者が授業に参加する



Eグループ 課題別視察 慶應義塾高等学校

慶應義塾高等学校では、大野義夫校長をはじめ、教諭の皆様が学校の歴史、概要、教育方針、特徴などを詳しく説明していただきました。

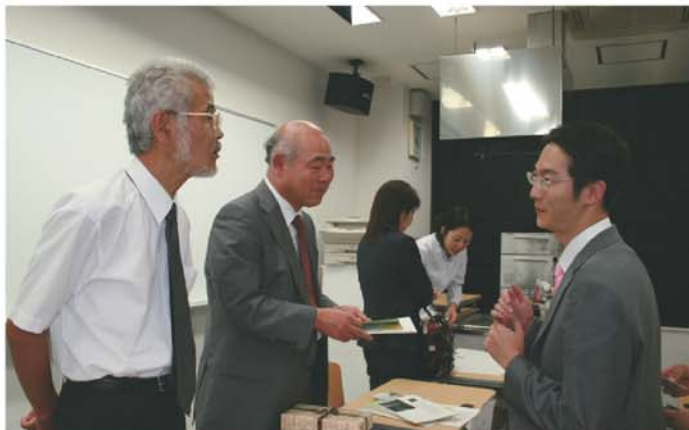
特に明治初期から人間の自由・平等・権利の尊さを説き、新しい

時代の先導者となった福澤諭吉の教育理念が今も慶應義塾高等学校の教育方針に受け継がれていて、各界に実力ある人材を多く輩出していることに日中韓の青少年は感銘を受けていました。

質疑応答では幼稚園（小学校）から大学院まで続く慶應義塾の一貫教育の長所について、また、高等学校では男女別学になっている理由など慶應義塾の特長について活発な質問が寄せられました。



慶應義塾高等学校の特徴である一貫教育について説明を受ける



慶應義塾高等学校大野校長に挨拶する韓国コースリーダー

明治学院大学・明治学院高等学校を訪問し、先生方の説明や美しい白金キャンパスの見学により、キリスト教主義教育の精神に触れました。

中でも、久世学院長による講演「日本における私立大学の役割」では、市民の大多数がキリスト教徒ではない中で、キリスト教主義教育を進めている学校が果たしている役割について明確なビジョン



Fグループ 課題別視察 明治学院大学及び明治学院高等学校

が語られ、日中韓の青少年から大変活発に質問が寄せられました。

また、訪問日が明治学院高等学校の文化祭の前日にあたり、校内各所で文化祭の準備に励む高校生と交流をし、日本の学生生活に触れることができました。



明治学院大学久世学院長の講演



明治学院大学で手作りのメッセージを送る劉愛平中国団団長

高等教育コースでは、高等教育の場でどのような考え方に基いて人材育成が行われているのかという視点で、視察及びディスカッションを行いました。視察については、私立大学に併設されており、明確な理念や方針のもとで人材育成を行っている高等学校や、公立校でユニークな取組みにより人材育成をしている高等学校を訪問させていただきました。

翌日のディスカッションでは、視察から何を学ん

だかを話した上で、各参加者がこれまで学校でどんな活動を行い、何を身につけたのかを共有しました。さらに、リーダーシップにはどんな要素が必要か、リーダーシップを育成するにはどんなプログラムがあったらよいかについて話し合いました。

参加青年からの意見としては、「日中韓の青年は、東アジアの連携を高めていくため、高等教育の場においても人的交流をより促進していきたい」「より多

くの青年が、高等教育の場を通じてリーダーシップを培っていけるよう、奨学金制度のさらなる充実を期待する」「青年たちが様々な活動を通して成長できるよう、大学受験にかかる負担は軽減されるべきだ」「独自のテレビ局や番組などで、青年たちが関心のある事柄について自ら発信する機会を作っていきたい」等が挙げられました。

文化交流コース：伝統文化の継承

Cultural Exchange Course: Carrying on Traditional Culture into the next Generation

グローバル化が進む現代においては、ともすると流行や新しい価値観にとらわれ、自国の伝統文化を軽視する傾向が見受けられます。しかしながら、情報の流れが速くなり、ボーダレスな社会であればこそ、互いの価値観の違いを受け入れられずに様々な衝突が起きている今だからこそ、お互いの違いを認め合い尊重しあうことによって、人類の繁栄と世界の平和を保っていく努力をするべきなのではないでしょうか。

それぞれの国で長年培われてきた伝統文化には、それぞれの文

化が引き継いできた価値観が含まれています。自国に引き継がれてきた文化について、改めて認識を深め、そして他国の人々に紹介するとともに、他国の文化、風習を学び受け入れる寛容性こそが、相互理解を進め、互いに尊重しあうことができるでしょう。

ここでは、日中韓の青年たちが、互いの伝統文化を基本にして自国の文化を紹介しあいながら、互いの文化の精神を理解するとともに、いかに次世代に継承していくか、文化交流を通じた相互理解の促進にいかんにか貢献できるかなどについて話し合います。

G・H・Iグループ 課題別視察 裏千家東京道場

平成20年9月18日(木)～19日(金)、文化交流コースを選択した日本青少年31名、中国青少年32名、韓国青少年32名で「伝統文化の継承」をテーマにディスカッションをしました。

コースのテーマに沿い、互いの伝統文化・文化体験の共有からはじめ、最終的には文化交流を通じた相互理解の促進に青少年がいかに貢献できるかについて意見をまとめることをねらって、ディスカッション・リーダーを中心にディスカッションが進められました。

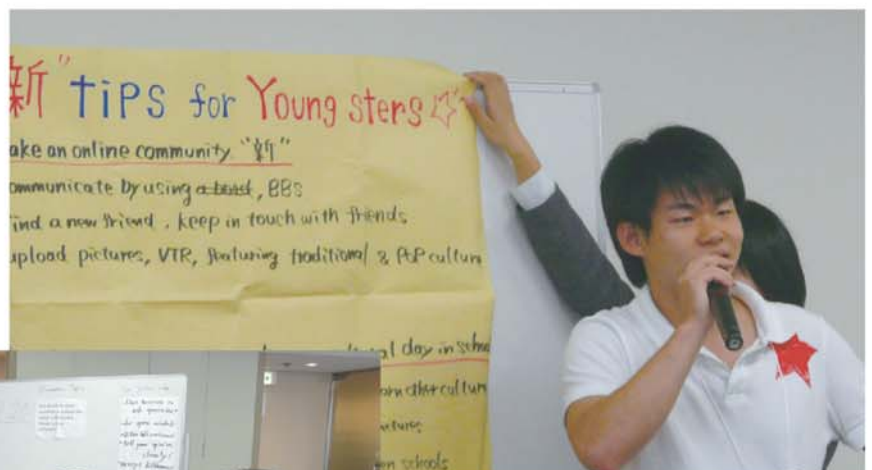
最初に全体でディスカッションの流れの説明、ディスカッション・リーダー12名(日本6名、中韓それぞれ3名ずつ)の紹介をした後、3つのグループに分かれました。グループ内で、ディスカッション・リーダーが工夫した自己紹介をしたあと、ディスカッションのゴールデンルールを自分たちで決めて、2日間のディスカッションの中での注意事項

を確認し合いました。

午後は、課題別視察先の裏千家の紹介ビデオ鑑賞をした後、3つのグループから、さらに小グループに分かれて「自分がかかわったことのある自国の伝統文化」を他国の青少年と共有。そこから「文化の精神(文化とは何か)」についてのディスカッションへ発展させました。文化はその国のアイデンティティであること、自分の文化を知ること

で、自国の背景を知り、他の文化を知ること、その国・背景を知り、それを切り口に相互理解を深めることができる等、活発な意見交換が行われました。

その後、「文化交流を通じた相互理解の促進に、自分たちならどのように取り組むか?」というトピックで、小グループごとのブレインストーミングを行い、意見を出し合って、翌日のまとめの準備をしました。



ディスカッションの内容を共有するために発表する参加者



熱心にディスカッションする参加者



裏千家東京道場を訪問し、茶道を体験する

2日目は、400年続く日本の伝統文化の代表格である裏千家を訪問しました。日本人でもなかなか訪問することのできない裏千家東京道場での茶道体験に、青少年たちは感銘を受けるとともに、裏千家の伝統文化を通じて、異文化、異世代間の相互理解を深めるための活動の紹介を受け、それらを自分たちの活動のヒントにしていたようでした。

午後には、ディスカッションのまとめのため、「文化交流を通じた相互理解の促進に、

青少年はどのように貢献できるか」についてグループごとにまとめ、文化交流コース全員の前で発表して、ディスカッション内容を共有しました。日中韓青少年交流事業のような交流事業を発展、継続させる、お互いの文化を紹介しあうイベントを企画する、ポップカルチャーを使って文化への興味を深める、共同出資で映画を作るなど、いずれも文化交流

を通じて相互理解を深めるためのユニークなアイデアが紹介されました。また、これらのアイデアをアイデアだけで終わらせるのではなく、今回自分たちが得た経験や学びをできるだけ多くの人に伝えること、そして、今回得た友人のネットワークを継続させていくことが大切だということを確認していました。



記念品を贈呈する参加者



ディスカッションの内容を発表する参加者

地方プログラム

9月20日～21日の1泊2日、原則として、中国青年1名、韓国青年1名の合計2名一組で日本の家庭にホームステイをし、日本文化への理解を図りました。受入れは、(財)青少年国際交流推進センターの団体会員である訪問県の青年国際交流機構(IYEO)が行いました。

山形県

ホストファミリーからの感想

すてきな出逢いに感謝申し上げます。宿泊した2人にとって、楽しい思い出の一頁が山形県、そして我が家であったなら、こんなに嬉しいことはありません。これからも交流のお手伝いができたら幸いです。
(今井康夫さん)

二日だけでしたが、私も妻も、二人の青年と貴重なおつき合いをさせていただいたと感謝しております。せっかくのホームステイが一泊だけとは、短いような気がしましたが、「もう少し、もうちょっと」と感じるのが最良だと言いますから、これで良かったのかもかもしれません。私の妻は中国人(長春出身)なので、二人とも安心していろいろなことを話してくれました。(水野清平さん)

米沢市でのホームステイ・マッチングの様子



大阪府及び近畿ブロック全府県

*大阪府IYEOを中心に2日間のプログラムが運営されましたが、ホームステイは近畿圏内全府県で行われました。

参加者の感想

中国参加青少年 孫 珏玥

日本訪問は、少し疲れましたが、とても素晴らしいものでした。京都でホームステイをしました。京都が大好きになりました。ホストファミリーには本当に感謝しています。たくさんの日本の伝統舞踊や建築物を見る機会に恵まれて幸せでした。二条城、清水寺、祇園の町並みを訪れ、雅楽、狂言、京舞、文楽を体験できました。日本の家族は親切でとても良くしてくださり、このような機会を得られたことを幸運に思いました。

私はこのプログラムの中ではホームステイがいちばん気に入りました。韓国の女性といっしょに日本の家族と共に生活して、ありのままの日本を知ることができましたし、リラックスしておしゃべりすることもできました。日本のニュース番組を見たり、ホストファミリーが作ってくれた料理を食べたり、夜に自分の家族や国のことについて話したりしているうちに、ホームシックが和らぎました。ホストファミリーは私をもてなすためにたくさんのことをしてくれました。時間やお金やエネルギーを注いでくれました。ホームステイが一日では足りないと思うほど、心に残る体験となりました。



熊本県

受入スタッフの感想

熊本県IYEO 楠木由利香

今回は準備期間が短く、対応可能なスタッフも少なかったことなど、心配もありましたが、来県する青少年の人数分のホストファミリーをお願いすることができ、スタッフ同士の絆も、さらに強いものとなりました。当日のレセプションでは、中国・韓国青年のパフォーマンスのプレゼントで、会場は大いに盛り上がり、私自身もホストファミリーとして、青年たちと楽しい時間を過ごすことができました。1日という短く、限られた期間ではありましたが、熊本の魅力を知ってもらおう良い機会になったと思います。最終日、空港でホストファミリーと涙のお別れをする青年たちの姿に、私の胸は熱くなりました。この小さな交流の積み重ねが、多くの人を笑顔に、そして幸せにできるのだと再認識できたことも、今回の受入れの大きな収穫の一つとなりました。

熊本城にて



大観峰を訪れ、ホストファザーとすばらしい景色を楽しむ中国青年

日本人参加者の研修

1. 事前研修(9月17日13:00～16:00)

研修スケジュール及び日本青年代表団員としての心構え等の説明の他、自己紹介を兼ねたアイスブレイキング、ディスカッションのための演習等を行いました。



日本人参加者の事前研修

2. 事後研修について(9月20日9:30～12:00)

プログラム中に経験したことを振り返り、日本人参加者間で共有し、「今後、東アジアの安定と繁栄のために自分ができること」について考えました。



ディスカッションの様子



すべてのプログラムを終え、笑顔の日本人参加者

平成20年度 第1回「国際理解教育支援プログラム」

(財)青少年国際交流推進センター (CENTERYE)は、青少年国際交流事業の実施、青少年国際交流に関する啓発、情報提供、支援などを通じて、社会の各分野において国際化時代にふさわしい青少年の育成をすることを目標としています。その具体的な活動の一つとして、内閣府青年国際交流事業に参加した在日外国青年等を日本の学校やそれに類する施設に派遣する「国際理解教育支援プログラム」を平成16年度から実施しています。ここでは、平成20年度第1回のプログラムの報告をします。

実施先： 渋谷区知的障害者教室「えびす青年教室」
場 所： 渋谷区立恵比寿社会教育館
日 時： 平成20年6月22日（日）13:00～15:30
担 当： 渋谷区教育委員会（石川稔、竹嶋玲子）
ボランティア・スタッフ（島山あいり）
参加者： 渋谷区在住15歳以上の知的障害者：41名
ボランティア・スタッフ：30名

◆講師

派遣された既参加青年	出身国	参加事業
Hudson Kalaeda	ソロモン諸島	SWY11
Yong Barnas	インドネシア	SSSEAYP16
Kitsutani Hernan	ペルー	SWY12
Jaime Collado	フィリピン	SSEAYP26、33、Ren'05
Chew Kim Soon	マレーシア	SSEAYP26
Anna Gruebler	ベネズエラ	SWY15、Ren'06
Alejandro Martinez Monge	スペイン	SWY16

◆スケジュール

時間	内容
13:00-13:20	全体挨拶（自己紹介） 日本語と母国語で自己紹介、世界地図で7人の出身国の場所を確認
13:25-14:35	グループ別の国紹介（3グループ） 20人程度のグループにそれぞれ2～3人の講師が付き、20～30分ずつ国紹介（国概要、言語、食と交流）
14:50-15:20	全体交流会（講師への質問や、感想、歌など）

◆参加者の感想

- ・いろいろな国のことを知ることができておもしろかった。
- ・スペインのお菓子がおいしかった。

◆講師の感想

- ・プログラムは成功だったと思う。グループ別の紹介はおもしろかったし、一緒に講師をした既参加青年に会えたことも嬉しかった。またこのような機会があればぜひ参加したい。
- ・とても充実した時間を過ごすことができた。念願のボランティアができ、とても嬉しかった。また週末にこうしたイベントを実施してほしい。



本プログラムの利用、参加を希望する方は
e-mail: iuesp@iyeo.or.jp tel: 03-3249-0767 fax: 03-3639-2436 までお問い合わせください。

2008未来を開くアジア青少年キャンプ

平成20年7月29日～8月18日、韓国の保険福祉家族部主催の「未来を開くアジア青少年キャンプ」が、ソウル市を中心に開催されました。(財)青少年国際交流推進センターは、韓国に派遣する日本青少年10名の選出及び、事前研修を実施しました。

この事業は、アジア青少年の韓国文化体験などによる韓国文化理解の向上、アジアの平和と繁栄のための青少年共同協力及び友好増進を目的としており、アジア21か国から260名の青年が参加しました。

日程表

日付	内容
7月29日(火)	入国、レクリエーション及び参加者交流
7月30日(水)	オリエンテーション及び参加国紹介、特別講演、開会式及び歓迎パーティー
7月31日(木) 8月2日(土)	アジア青少年フォーラム (テーマ講演、グループ討議、全体討議、アジア各国の公演・展示・食べ物紹介など)
8月3日(日)	アジア青少年祭り(アジア各国の公演・展示・食べ物紹介など)
8月4日(月)	先端産業施設見学、国立中央博物館見学、Nソウルタワー見学
8月5日(火)	分野別テーマ体験、漢江遊覧船観光
8月6日(水)	韓国民俗村見学、エバーランド見学
8月7日(木)	韓国語授業Ⅰ、韓国伝統文化体験
8月8日(金)	ボランティア活動
8月9日(土)	韓国語授業Ⅱ、アジア青少年祭り(アジア各国公演)
8月10日(日)	韓国語授業Ⅲ、パフォーマンス披露(韓国の歌、ハングル演劇など)
8月11日(月)	海洋活動
8月12日(火)	韓国の自然体験、グループ討議(テーマ:自然環境保護のためのアジア青少年の協力)
8月13日(水)	ミニアジアゲーム2008、アジア青少年の友情の夕べ
8月14日(木) 8月17日(日)	韓国文化体験、ホームステイ、閉会式及び送別会、評価会
8月18日(月)	帰国

アジア・フード・フェアで参加国すべての料理が披露される



参加者の感想

亀田 周

今回、私たち日本の青少年10名は、アジア全域から集まった250名の青少年と韓国各地において様々な活動を行いました。本事業の大きな柱は、ディスカッション、各国文化紹介、韓国文化体験の3つでした。

ディスカッションでは、文化・環境・社会・メディアの4つのテーマに分かれ、各グループ10名程度でテーマに対する現状の課題、また課題を解決するために個人が何をすべきかということとを2日間話し合い、最後に全体で発表し合いました。ディスカッションを通じ、環境問題1つをとっても、各国で環境に対する意識、問題点は大いに違うことがわかりました。話し合うにつれ、多くは国境を越えた問題であり、国を超えた問題意識の共有、一人ひとりの意識改革が必要だという共通認識を持ちました。

各国文化紹介では、パフォーマンス、展示、料理の3つの部門で、国ごとに自国の文化をアピールしようと切磋琢磨しました。ここでは今まで地図の中でしか知らなかったキルギスタン、ウズベキスタン、アフガニスタンといった中央アジアや、西南アジアの国々の荘厳な伝統衣装や、香辛料たっぷりの伝統料理をいただき、アジアの多様性を再認識させられました。また、どの国の青少年も日本文化に非常に興味を持ってきていることを実感しました。

韓国文化体験では、民族村訪問、韓国語授業、ホームステイ等を通じて、改めて日本と韓国の近似性を感じました。民族村では日本の農村を歩いているような錯覚を覚え、韓国語の授業では、日本語と韓国語の中に意味も発音も同じ言葉が多くあることに驚きました。

アジアの未来を創造する青少年が集い、実り多き3週間を過ごす中で、アジアは広いということを実感しました。東は日本、西はアフガニスタンまで、あらゆる民族、宗教、言語、文化を持つ、同じ世代の若者が同じ場所で同じ時間を過ごすことで、互いの違いを感じつつも、国を超えたアジア人としての意識が芽生えたのではないかと考えています。ここで出会った青少年たちとともにアジアの未来を切り開いていきたいと考えています。



ディスカッション・プログラム(筆者中央、バングラデシュの男性と韓国の女性と共に)

アジア21か国から260名の青年が参加した



平成20年度内閣府青年国際交流事業(航空機による青年海外派遣)報告会

平成21年2月15日(日) 13:15 - 17:00

第35回「東南アジア青年の船」事業報告会

平成21年3月1日(日) 13:00 - 16:30

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟1階 国際会議室
小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約7分/東京メトロ千代田線 代々木公園駅下車 徒歩約10分
入場無料・開催時刻は予定
主催：内閣府政策統括官(共生社会政策担当)
(財)青少年国際交流推進センター
日本青年国際交流機構(IYEO)



(航空機) airreport@iyeo.or.jp
(東南アジア青年の船) sseayp@iyeo.or.jp

平成21年度「内閣府青年国際交流事業」大学説明会の開催について

1. 事業説明会の趣旨

(財)青少年国際交流推進センターは、内閣府からの依頼により内閣府青年国際交流事業の周知を図るため、主な大学で事業説明会を行っています。

内閣府からの事業説明に加えて、既参加青年による事業を通じて得た知識や経験の発表により、事業の意義や価値を国際交流プログラムに関心のある方に直接伝えていきます。

本年度は11月4日時点で以下の大学に於いて開催を予定しています。本説明会は開催する大学の関係者に対して実施するものですので、部外者の出席は認められていません。皆様のお知り合いで以下の大学の関係者がいらした場合には情報をお伝えいただければ幸いです。

主催：内閣府
(財)青少年国際交流推進センター

開催予定大学：

月日	曜日	時間	大学
11月5日	(水)	13:30-15:00	一橋大学
11月17日	(月)	17:00-18:30	法政大学
11月18日	(火)	16:30-18:00	中央大学
11月19日	(水)	17:00-18:30	早稲田大学
11月20日	(木)	17:30-18:30	上智大学
11月26日	(水)	16:30-18:00	明治学院大学
11月27日	(木)	16:20-17:50	津田塾大学

月日	曜日	時間	大学
12月1日	(月)	16:10-17:40	桜美林大学
12月2日	(火)	12:20-13:20	お茶の水女子大学
		17:30-19:00	横浜国立大学
12月3日	(水)	13:15-14:45	獨協大学
12月4日	(木)	調整中	明治大学
12月5日	(金)	15:05-16:35	明治学院大学
12月9日	(火)	18:00-19:30	学習院大学
12月10日	(水)	15:00-16:30	東京外国語大学
12月11日	(木)	17:00-19:00	立教大学
12月12日	(金)	17:00-19:00	筑波大学
12月17日	(水)	調整中	青山学院大学

※今後、随時開催する大学を調整してまいりますので以下のホームページで確認いただければ幸いです。

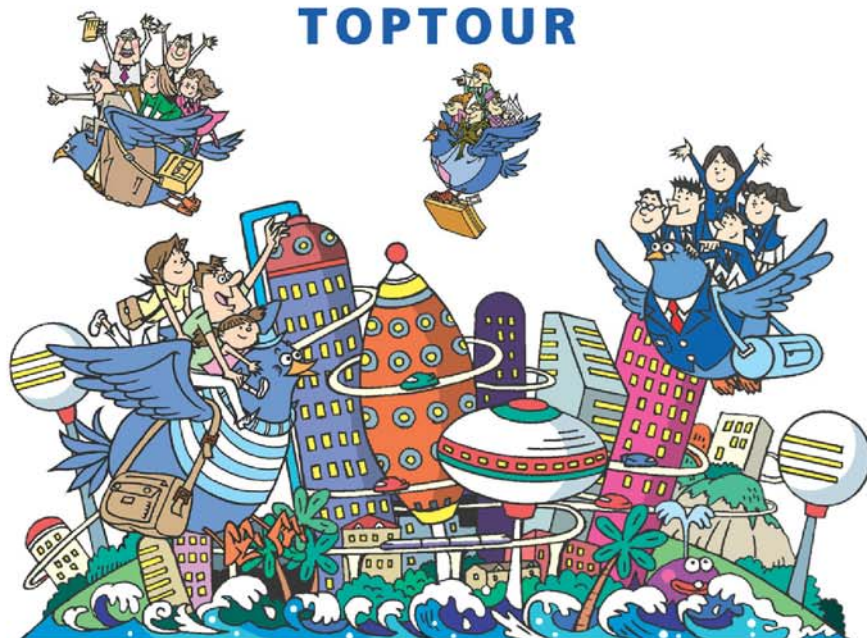
(財)青少年国際交流推進センター HP : <http://www.centerye.org/>

The 50th Anniversary

2006年1月31日



TOPTOUR



人が行き、人が集う、それが旅。

東急観光株式会社は創立50周年を機にトップツアー株式会社として生まれ変わりました。

旅は人と人とのコミュニケーションの架け橋

旅は人と自然が触れ合う地球の扉

旅は人と歴史をつなぐ時空間のトンネル

そんな旅を創造し、提案する[旅行インテリジェンス企業]

それがトップツアー株式会社

東急観光は50年にわたる第一幕からトップツアーとして新たな第二幕のステージに立ちました。

みなさまから愛される企業をめざして……



東急観光が社名を変えました。

トップツアー株式会社

国土交通大臣登録旅行業第36号 © 日本旅行業協会正会員 ホンド保証会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号 <http://www.toptour.co.jp> <http://toptour.jp>

今月の表紙

平成20年度日中韓青少年交流事業～21世紀東アジア青少年大交流計画事業～より

- ①手描きのイラストを使ってディスカッションの内容を発表する
- ②施設訪問で日本科学未来館を訪問する
- ③空港で別れを惜しみ、ホストファミリーと記念撮影する中国と韓国の参加者



①



②



③

編集後記

9月に実施された日中韓青少年交流事業では、若者たちが手持ちの文具等をうまく使って、じょうずにイラストを描き、楽しくディスカッションしている光景を見て感心させられました。たくさんの人と話したいという熱意が伝わってくる交流でした。

MACROCOSM 11月号 vol.83

2008年11月5日発行

編集 マクロコズム編集委員会

発行 (財) 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町
2-35-14 東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centrye.org/> (CENTERYE)

<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)

日本青年国際交流機構 (IYEO)

定価 200円 [本体191円]

印刷所 株式会社デックス

TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270



楽 につぼん丸



極上の演出で
皆様をお待ちしております



選び抜かれた
厳選食材で舌つづみ



くつろぎのラウンジで
優雅なひとときを



多彩なイベント・ゲストが
感性を刺激します

快適な船旅を、お約束します。

新春の瀬戸内海周遊クルーズ 神戸→瀬戸内海周遊→神戸 文化人からも愛された、京都の料亭旅館「美山荘」の「摘草料理」がにつぼん丸に登場。 ■旅行代金 大人お一人様 グループ3 スイートルーム
(船内食事付・消費税込) **82,000円～320,000円**

oasis につぼん丸 横浜 横浜→伊豆諸島周遊→横浜 尺八の藤山道山率いる「古武道」がにつぼん丸に登場。 ■旅行代金 大人お一人様 グループ3 スイートルーム
(船内食事付・消費税込) **89,000円～328,800円**

oasis につぼん丸 神戸 神戸→瀬戸内海周遊→神戸 待望の関西オアシス。 ■旅行代金 大人お一人様 グループ3 スイートルーム
(船内食事付・消費税込) **89,000円～328,800円**

そのほかのクルーズもご用意しておりますのでお気軽にお問い合わせください。*グループ3はステートルームBを3名で利用した場合の代金です。



商船三井客船

〒107-8532
東京都港区赤坂1-9-13
三倉ビル5F

<http://www.mopas.co.jp>

お問合わせは、
MOPAS
クルーズデスクへ。

クルーズデスクフリーダイヤル

0120-791-211

